



給食だより

令和6年1月

日光市立小林中学校



1月24日～30日は、**全国学校給食週間**です！



毎年1月24日から30日は、学校給食週間になっています。これは、日本全国で、学校給食の意義や役割について考え、理解や関心を深める週間です。日本の学校給食は、明治22年に山形県鶴岡市の私立忠愛小学校において貧困児童を救うために提供されたことが始まりと言われています。この機会に学校給食の歴史や献立を振り返って、学校給食を毎日食べられることに感謝しましょう。

学校給食はじめて物語

明治22年



貧しい家庭の子供たちは、子守で学校に行けなかったり、弁当を持参できなかつたりしました。

雨の日も風の日も



佐藤霊山さんというお坊さんが中心となって、托鉢(たくはつ)をしてお金を集め、給食費にあてました。

学校給食の始まり



忠愛小学校では、給食が食べられるので、貧しい子供たちも学校で学べるようになりました。

今から70年くらい前、日本は戦争が終わったばかりで食料が不足し、みんなおなかを空かせていました。日本の子供たちの様子を見て、他の国から脱脂粉乳や缶詰などが送られてきて昭和21年12月24日に給食を再開することができるようになりました。

その後もたくさんの人たちの温かい気持ちに感謝し、このことを忘れることのないよう「給食記念日」が設けられました。

給食が再開された12月24日はちょうど冬休みにあたってしまうため、1か月後の1月24日を『学校給食記念日』この日から1週間は『学校給食週間』としました。



～今月の地産地消食材 野口菜～

日光市の野口地区で生産されている伝統野菜です。別名「水掛菜」とも呼ばれています。冬の寒さから野口菜を守るため、11月からうねの間に湧き水を流し込んで栽培するのが特徴で、12月下旬から3月ごろ収穫します。ビタミン・ミネラルが豊富で、カルシウムはほうれん草の2倍もあります。

